

NPO 法人環境市民 理事会 第 9 期 第 5 回（通算第 87 回） 議事録

(a) 日時および場所

日時 2018 年 8 月 9 日（木）15:00～17:00

場所 環境市民事務局（京都市中京区麩屋町二条下る第二ふや町ビル 206）

(b) 理事の総数 14 人（定足数 理事総数の 3 分の 2 以上＝10 人）

(c) 出席した理事の氏名（以下、敬称略）

出席者：石崎雄一郎、太田航平、加藤良太、杵本育生、下村委津子、松田直子

（ZOOM による参加）神田浩史、瀬口亮子、早瀬昇、原田紀久子、松下和夫

委任状提出者：片山雅男、嘉田由紀子、白石克孝（すべて議長への委任）

(d) その他の出席者 野村哲司、風岡宗人

(e) 議長 杵本育生を指名。

(f) 議事録署名人 加藤良太、松田直子を選任。

(g) 議事録作成者 風岡宗人（事務局）が担当。

(i) 付議した事項

議題と決定事項（議決結果のみ）

1 報告事項

- ・ 認定 NPO 法人の更新手続き

2 討議・決定事項

1) 組織のあり方についてフリーディスカッション

議決結果：理事会の場でテーマ設定を明確にして議論していくこととなった。

2) 広報、メディア、コミュニケーションの戦略と手法に関する WG メンバーと開催調整

議決結果：有志理事、ボランティアメンバーで検討をすすめることとなった。

3) SDGs 市民社会ネットワークへの参加検討 資料参照

議決結果：入会することとなった。

4) 5)G20 市民社会プラットフォームへの参加

決定事項：参加団体として参加することとなった。

3 情報共有

- ・ 岩井木材さんからの提案
- ・ 過去の阪急電車でのエコトレインの SDGs に関する提案について

(j) 審議・議決の詳細

1 報告事項

下村) 認定 NPO 法人更新手続き：①京都市条例指定の要件合致が認められたら、②認定の手続きに入れる。①は終了。②は 9 月 15 日までに提出予定。役員に住所等の変更があれば連絡がほしい。

杵本) スタッフの交代。大西さんが他の事業で多忙のため、当面風岡が交代要員として週 3 日程度入ることになった。

経理スタッフの野村さんの退職希望により、9 月からは代わりのスタッフを入れるのではなく、石原税理士にお願いすることになった。

2 討議・決定事項

1) 組織のあり方についてフリーディスカッション

杵本) 発足から四半世紀がたち、このままの組織モデルでいいのか、変えていくのかを決めるために2年間になる。これからの議論の方向性、すすめ方(部会制など)について自由に議論していただきたい。外部評価委員の意見では、会員参加型活動のモデルとしてやってきたが、このモデル自体時代に合わせて変えていくことも検討しては、というものがあつた。

松下) 杵本さんにとっての一番の成果は何か。私は自治体の首長と連携した活動が大きかつたと思うが。

杵本) 環境首都創造、グリーン・エシカルコンシューマー活動では日本の中でリーダーシップをとつてきたと自負している。また環境市民が呼びかけて全国各地のネットワークをつくつてきたこと自体が成果とも考えている。

加藤) 90年代から活動してきたNGOが同じように帰路に立っている。これから先は他の団体が経験していない領域に踏み込んでいくことになる。

瀬口) 先行例はあるが、どれも世代交代をしないで一般社団法人化や任意団体化をして終わりというところだと思う。

加藤) 法人格の有無にとどまらない議論が必要。

太田) もし資金が潤沢であれば今のモデルを継続するのか。

杵本) 今の日本社会ですべきことが大きく変わつてきている。活動の作り方自体も含め議論したい。もちろん世代交代もその範囲に含まれるが、世代交代が目的ではない。もし資金が潤沢であれば、ということについて、社会にインパクトのある活動ができているとは思えない。

太田) 昔に比べれば活動が多様化している。活動する人の満足度も下がっている。いまの若い世代が次の時代を描けていないのかどうか。

杵本) 環境市民はいつも時代の先を行き過ぎていたと思う。

加藤) 先走る人もいないといけない。

下村) NGOとして次の世代のために耕していくことは重要な役割。ちょっと先を見た活動の設計を見据えたい。

原田) 現状はだれが活動を担っているのか。若い人は入っているのか。

下村) 持続可能な消費は若い人も多い。環境首都創造は高齢化してきた。環境市民内では環境マイスターは杵本さん中心。

杵本) 少し前はボランティアから新しい芽が出てくることが多くあつたが、いまはそれが見られない。

原田) 杵本さんのノウハウの伝授も大切ではないか。

加藤) 属人的な要素も大きいので同じことができると思えない。

瀬口) 人が変わればその人のやり方でやったほうがいい。

野村) 若手の活動を寛容に受け入れるという姿勢も必要だった。

松田) ある時点から専従スタッフが担うようになりボランティアの領域が少なくなつた。それを前のようにしていくほうがいいのか。

杵本) 早瀬さんに質問だが、組織の曲がり角にどう対応すべきか。

早瀬) 大阪ボランティア協会の場合、事務局長は5代目、理事長は3代目。活動の継承の際、これまでのリーダーを受け継ぎながら、それを乗り越えることができないと難しい。小さな企画集団で自由に動かせるような形態があるといいのでは。

杵本) 次回以降、この議論を集中してやっていきたいが、このプロセスをどう設計すべきか。2年後の環境市民像を一人ひとりが考えて提案してもらうのはどうか。

太田) 若手で議論した際も結局は理事会で承認を得る必要もあり、ワーキンググループ制は違うと思う。

加藤) 「コア・オブ・環境市民」はどこか。みんなが大切にしているところを出し合う必要があるか。

下村) その意味では現在掲げている理念が大切だと思っている。

加藤) ビジョン、ミッションから、楽しさから、いろんな切り口がある。楽しくないが必要だから、という団体もある。

松田) 有給スタッフを置いていないところは、楽しさを重視しているように感じる。

瀬口) 環境市民の場合、活動の区切り(ゴール)の設定が大きすぎてわかりにくい。

杵本) そんなに簡単に解決できない課題の解決にチャレンジしているということもある。

加藤) 目に見える目標を掲げ、わかりやすい敵を定め、ショットガンのように成果を出すという道もある。

瀬口) マーケティング的にはGreenPeaceのようにわかりやすさから支援者を集めているところもある

る。わかりやすいゴール設定はしてもいいのではないか。

杵本) 環境市民がなければネットワークもなく、エシカル通信簿もない。

瀬口) 環境市民が働きかけたから自治体に普及したという事例とか。

杵本) 社会の仕組みを変えることを重視してきた。おかしな仕組みをどうにかしたい、という思いがある。

太田) 祇園祭ごみゼロであればみんなにとってわかりやすい。

松田) 環境市民の活動は説明しにくい。

太田) B to C よりも B to B なのか。B to B は一般からの共感を得にくい。

加藤) 仕組みを変えるというところでは B to B になるか。

太田) ただその活動をみんなで行っていくというやり方もある。

杵本) 「ぐりちょ」ができれば多くの利用者が見込める。

杵本) 今後、理事会で議論していくということでもいいか。理事会合宿も数回必要かと思っている。

神田) プロジェクトベースのわかりやすい成果がもてはやされる状況において、わかりにくいところに取り組んできた。90年代から NGO にも変化があった。一方で短期的な成果は表現することは可能だと思う。ネットワーク化も試行錯誤でやってきたと思うが、ネットワーク化の必要性をまとめられれば意義は大きい。

決定：理事会の場でテーマ設定を明確にして議論していく。

2) 広報、メディア、コミュニケーションの戦略と手法に関する WG メンバーと開催調整

杵本) 広報に積極的に取り組んできたものの手間がかかる。この1年で方向性を固めたい。そのためのワーキンググループを立ち上げることになっていた。

下村) 有志理事、ボランティアにも声がけしつづけてきたい。ニュースレターの校正ボランティアの方から、スマホでかざすと情報が浮き上がるような仕組みも利用できるとのこと。21世紀の広報を視野に入れて考えていきたい。

(初動期構成メンバー案)

理事：下村、加藤、瀬口

ボランティア：平山、南村、堀家

加藤) メンバー以外でも広報の意識を持って情報を提供いただきたい。

(現在の活動状況)

ニュースレター：月1回

メールニュース：隔週

ラジオ：原則毎週

WEBサイト：随時

SNS：FBは動いているがTwitterは動いていない

太田) 手段から入るより目的を確認したほうがいいのでは。

加藤) 世論を喚起するという目的もある。

杵本) これまで会員サービスの意味で紙媒体を重視していたが、社会的な状況も大きく変わってきた。必要なことは理事会に上げてもらい議論していきたい。

下村) 環境市民のパンフレットも絶版になって久しい。京都市の助成金(上限4万円)が利用できる。しかし何を広報するかが決まっていないとやりにくい。

瀬口) 振り込み用紙を入れなくてもいいならA4版三つ折りなどの形態の方がいいかもしれない。

決定：有志理事、ボランティアメンバーで検討をすすめる。

3) SDGs 市民社会ネットワークへの参加検討 参考資料あり

加藤) もともと国際協力系の NGO が中心となってつくられた。

太田) WEB を見ると事業が12ユニットに分かれており、環境市民も入っている。

早瀬) 入ったほうがいいと思うが会費の負担が問題になる。

杵本) 環境市民にも SDGs に関する講演依頼が増えつつあるので情報を得ておくメリットはあると思う。

決定：入会する。

4) 今後の環境市民の主な事業

- ・ 10/8 (月・祝)「小さき声のカノン」上映会と守田敏也氏と鎌仲監督トーク交流
下村) 過去、環境市民 channel をやってきたがその財源を使って実施する。参加費 1000 円。
杵本) 広報に協力いただきたい。
- ・ 10/13～(仮) 環境活動パワーアップ講座 受講者募集
杵本) 環境教育から環境活動に変えることになった。12月まで5回連続。参加費無料。当日のゲスト講師や参加者募集の協力をお願いしたい。
- ・ 10/21{新}CSR 検定 参加者募集
下村) 環境市民が京都会場を運営する。受検者を募集。京都会場の受検は環境市民の収入になる。
- ・ 1/17,18 環境首都創造フォーラム京都
杵本) 今年度は 90 年代以来初めて京都で開催。これから企画していく。ぜひご参加いただきたい。
- ・ 政策評価オリンピック
杵本) 今年も募集中。領域 I は直接的な CO2 削減策に関するもの。今年は総合的な環境政策、SDGs、エンパワメントなどの領域 II をつくった。お知り合いの自治体に誘いかけてほしい。現在の誘いかけ先の情報を理事会と共有する。
松下) IGES でも参加者募集に協力したい。

5)G20 市民社会プラットフォームへの参加

加藤) 6/19 に立ち上がった。①幹事団体、②参加団体の枠組みがある。①は中間支援、グローバルイシューを対象とする団体。②の参加団体は、当面負担はないので環境市民も入ってほしい。
加藤) 現在地域版のプラットフォーム立ち上げ準備をしており、秋口にはご案内できると思う。
松下) シンクタンクの集まりである T20 というものがあり、「環境と気候変動」では私が取りまとめを行う。市民社会との連携もしていければ。来年度は IPCC も京都で開催される。

決定：参加団体として参加する。

3 情報共有

- ・ 岩井木材さんからの提案
下村) 以前からいろいろご提案をくださる。SDGs に関して家や材木を使ってなにかできないかと言われている。一度ご挨拶に行ってもいいと思う。
- ・ 過去の阪急電車でのエコトレインの SDGs に関する提案について
杵本) 過去に実施したエコトレインのような活動を提案できないかと考えている。しかしやるとなるとマンパワーも必要になる。
加藤) 京阪電車にも呼びかけてみてはどうか。

議長_____

議事録署名人_____

議事録署名人_____